

## ふくしまの幕末～浜通り・中通り版～

平成30年が明治元年から満150年になるのに合わせて各地で記念事業や観光キャンペーンが展開されています。近世から近代へ、幕末は日本の歴史の大きな転換点です。

会津藩の幕末については「本の森への道しるべ 地域14 幕末会津」で関連資料をリストにしてご紹介しておりますが、今回は浜通り・中通りの幕末について書かれた資料をご紹介します。ぜひあわせてご利用ください。

リストには挙げませんでした各市町村での幕末については市町村史にも書かれていますので、こちらもご参照ください。

また「本の森への道しるべ 地域29 新島八重」「地域30 新島八重②」もどうぞご利用ください。

### 明治150年

「明治150年」ポータルサイト		<a href="http://www.kantei.go.jp/jp/singi/meiji150/portal/">http://www.kantei.go.jp/jp/singi/meiji150/portal/</a>
官邸HP内にある明治150周年関連の情報をまとめたページ。イベント情報やデジタルアーカイブ、国や地方公共団体の取組の紹介など。		
「明治150年」関連施策		<a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025b/tiikishinkou-131.html">https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025b/tiikishinkou-131.html</a>
福島県企画調整部地域振興課による国・県・県内各市町村の「明治150年」関連施策をまとめたページ。		
会津若松市戊辰150周年記念事業		<a href="http://boshin.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/">http://boshin.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/</a>
官・民で結成された会津若松市戊辰150周年記念事業実行委員会のHP。イベント情報以外に戊辰戦争や会津の先人を紹介するページもあります。		

### 全国と東北の幕末

R	近世日本国民史 72 奥羽戦争篇	徳富 猪一郎(蘇峰)／著	近世日本国民史刊行会	1963	L210.5/T5/2
R	江戸・東京坂道奇談	朝倉 毅彦／著	文芸社	2007	L210.6/A19/1
	南奥戊辰記 p141-199				
R	仙台藩細谷十太夫からず組の顛末	江代正一／[著]	江代正一	1998	L210.6/E2/1
R	[官軍墳墓地景況調査報告書綴]		[出版者不明]	1917	L210.6/K4/1(別)
	戊辰戦後50年に際して福島県内の官軍の墳墓について調査した綴り。				
R	戊辰戦争仙台藩土祖父太田新六郎の戦歴を偲んで	甲高武雄／著	甲高武雄	1985	L210.6/K8/1
	白い国の詩		東北電力		L210.6/K16
	通巻592号(2005.12)「奥羽越」列藩同盟の成立 栗原 伸一郎／著 p4-9				
	吾妻山に散る 館林藩土森谷留八郎垂休小史	森谷正孝／著	[森谷正孝]	1991	L210.6/M5/1
	奥州巡礼・佐土原飛脚	水沢松次, 青山幹雄／編	[水沢松次]	1994	L210.6/M6/1
R	戊辰戦争を歩く	清水幸義／著	PHP研究所	1974	L210.6/S11/1
	慶応戊辰奥羽蝦夷戦乱史	佐藤 浩敏／著	マツノ書店	2008	L210.6/S30/1
	1917年発行の同名図書の復刻版				
R	幕末諸隊100		三オブックス	2017	L210.6/S35/1
	復古記 第12冊 北陸道戦記2 奥羽戦記	東京大学史料編纂所／編纂	東京大学出版会	1975	L210.6/T13/1
	1930年発行の同名図書の復刻版				
	戊辰戦争年表帖 その時、幕末二百八十二諸藩は?		ユニプラン	2013	L210.6/U2/1
	理由なき奥羽越戊辰戦争	渡辺春也／著	敬文堂	1985	L210.6/W1/1
	日本を揺るがした戊辰戦争	渡部 幸雄／著	創栄出版	2014	L210.6/W5/1
R	江戸三〇〇藩最後の藩主 うちの殿さまは何をした?	八幡 和郎／著	光文社	2004	L210.6/Y13/1
	歴史再検証戊辰戦争とは何か 倒幕の内戦は“鳥羽伏見”で十分だった!	八幡 和郎／監修	宝島社	2016	L210.6/Y13/2

R	幕末維新のすべて		洋泉社	2017	L210.6/Y14/1
R	幕末維新 第10編 第十六代豊範公紀 明治元年六月一日～明治元年八月末日	山内家史料刊行委員会／〔編〕	山内神社宝物資料館	1987	L210.6/Y5/1
R	幕末維新 第11編 第十六代豊範公紀 明治元年九月一日～明治元年十二月末日	山内家史料刊行委員会／〔編〕	山内神社宝物資料館	1987	L210.6/Y5/2
	紀行奥羽戦争	柳 敏之／著	文芸社	2000	L210.6/Y8/1
	戊辰戦争とうほく紀行 んだんだボックス	加藤 貞仁／著	無明舎出版	1999	L291.09/K12/1
	維新の肖像	安部 龍太郎／著	潮出版社	2015	L913.6/A21/2
二本松出身の歴史学者・朝河貫一とその父を描いた小説。貫一の父は二本松藩士として戊辰戦争で戦いました。					
	新・雨月 戊辰戦役朧夜話 上・下	船戸 与一／著	徳間書店	2010	L913.6/F4/1-
	復古記 第13冊 白河口戦記, 平潟口戦記, 越後口戦記1	太政官／編	内外書籍	1930	210.61/F/13
	戊辰戦争の史料学	箱石 大／編	勉誠出版	2013	210.61/ハヒ133
	竜は動かず 奥羽越列藩同盟顛末 上・下	上田 秀人／著	講談社	2016	913.6/ウヒ16Z/1
	歴史評論		校倉書房	2011	Z205/R1
通巻735号 「幕末維新史と戊辰戦争」 箱石大 p29-38					
	歴史読本	新人物往来社			Z210.05/R4
第43巻第12号(1998.12) 特集 戊辰大戦争(L210.6/R1/3) 第48巻第11号(2003.1) 特集 幕末維新300藩事件簿(L210.6/R1/4) 第58巻第3号(2013.3) 特集 幕末戊辰戦争全史					
	政治経済史学	日本政治経済史学研究所			Z310.5/S3
173, 174, 176 「奥羽越列藩同盟の性格と東北戦争の意義1～3」 亀掛川 博正					

## 県内各地の幕末

	隠された郡山の戊辰戦争	七海 皓瑒／著	歴史春秋出版	2008	L081.6/R1/56
	安積良斎 近代日本の源流	安藤 智重／著	歴史春秋出版	2010	L081.6/R1/27
安積良斎は現在の郡山市出身の学者です。門下には吉田松陰や高杉晋作など維新の志士が多数います。					
R	歴史	福島大学歴史学研究会			L205/F1/1-
第7集 「幕末の人口動態」 小豆畑祐繁 p29-33					
	福島史学研究	福島県史学会			L210.05/F1
復刊第31号(1981) 「幕末維新时期の藩領について」 佐藤公彦 p45-69 第76号(2003) 「荒井治良右衛門慶応日記」の時代」 荒井忠秋 p21-42 第82号(2006) 「幕末白河藩の遠景 ー若干の古文書、史料からー」 荒井忠秋 p13-34 第91号(2013) 「文久三年の奥州中村藩江戸警備と在郷給人郷土」 水久保 克英 p59-74					
	福大史学	福島大学史学会			L210.05/F2
第2号(1966) 「明治維新と守山藩ー戊辰戦争を中心としてー」 大河峯夫 p14-45 第21号(1976) 「明治維新と三春藩・「藩制」改革」 菅野与 p13-18 第38号(1984) 「幕末維新时期における農民の時世観」 大内寛隆 p1-14 第80号(2009) 「陸奥国守山藩に於ける幕末期の政局と郷土の動向について」 大河峯夫 p93-114					
	磐城史談	磐城史談会			L210.05/I1
第4巻第1号(1957.7) 「磐城戊辰史余録」 根本忠孝 p6-8					
	相馬藩慶応戊辰日記 一・二	岩城忠右エ門／著	〔福島県立図書館〕	〔昭和9年〕	L210.08/I3/1-
	逸脱する百姓 菅野八郎からみる一九世紀の社会	須田 努／編	東京堂出版	2010	L210.5/S5/1
菅野八郎は現在の伊達市保原町生まれの農民で、安政の大獄に巻き込まれて八丈島に流されるも、赦免され元治元年(1864)帰村。慶応2年(1866)には一揆を指導したとして、捕縛され入牢しますがすぐに明治維新となり放免されました。					

	福島の戊辰戦争	安斎宗司／著	歴史春秋社	1981	L210.6/A11/1
R	二本松の落城	荒木昇／編	社会教育協会	1940	L210.6/A2/1
R	戊辰私記	味岡礼質／編	関内米三郎	1903	L210.6/A5/1
R	戊辰役官軍殉難者調	福島県／編	福島県	[明治初期]	L210.6/F2/1
	戊辰としらかわ史跡探訪	福島県南地方振興局／制作	[福島県南地方振興局]	[2013]	L210.6/F7/3
	三春戊辰戦争始末記	橋本捨五郎／著	橋本捨五郎	2003	L210.6/H10/1
	新選組 戊辰戦争奥州白河口	金子 誠三／著	金子誠三	2002	L210.6/K13/1
R	明治戊辰戦役戦闘図		[出版者不明]	[不明]	L210.6/M4/1
	複製資料				
	戊辰戦争 白河口の戦い	大高良元／編	大高良元	2004	L210.6/O8/1
R	駒ヶ嶺口戊辰戦争史	鈴木留太郎／著	佐藤与八	1952	L210.6/S5/1
	明治戊辰戦争	斎藤笹舟／著	相馬郷土文化協会	1953	L210.6/S9/1
	慶応四年戊辰戦争白河口の戦い殉難者名簿	白河青年会議所創立30周年実行委員会／編	白河青年会議所	1988	L210.6/S20/1
	戊辰戦争従軍記	志賀与祖右衛門由隆／著	鹿島町古文書学習会	1989	L210.6/S21/1
	白河と新選組 沖田総司は白河藩士の子だった！！	白河観光協会／編	白河観光協会	[2004]	L210.6/S24/1
	奥州相馬中村藩の戊辰戦争 出陣日記に見る	四條 喜三郎／著	[四條 喜三郎]	2006	L210.6/S27/1
	官軍戦没兵士の墓遍路 戊辰戦争白河口	鈴木 誠三／著	[鈴木誠三]	2007	L210.6/S28/1
	戊辰としらかわ 白河口の戦いと新島八重	白河観光物産協会／企画編集	[白河観光物産協会]	[2013]	L210.6/S32/1
	明治の士族 福島県における士族の動向	高橋哲夫／著	歴史春秋社	1980	L210.6/T6/1
R	戊辰戦争と土湯	渡辺忠蔵／著	渡辺忠蔵	1989	L210.6/W2/1
	数学者が見た二本松戦争 武士道の精髓を尽くした戦い	渡部 由輝／著	並木書房	2011	L210.6/W4/1
R	『145年前の騒乱について』－戊辰戦争のこと・信夫郡(現福島市)の状況－	太田 隆夫／[著]	福島市立図書館	[2013]	L211/O6/2
	すぎのめ	福島市杉妻地区史跡保存会			L/211/F8/1-
	15号(1992)「戊辰戦争時の巳貢税割附之事」樋口まき p53-56 26号(2003)「戊辰戦争 からす組の事」丹治伸吉 p33-39				
	川俣史談	川俣町地方史研究会			L/212/K9/1-
	第2号(1976)「明治戊辰の松沢村農兵」三浦倭文 p48-52 第9号(1982)「戊辰戦争と小島」佐藤正五 p57-58 , 「阿州官軍の墓碑」新関儀蔵 p59 第10号(1983)「幕末の義民 松沢村の氏家条八(一)」三浦倭文 p10-15 第11号(1984)「幕末の義民 松沢村の氏家条八(二)」三浦倭文 p50-57 第18号(1993)「明治戊辰時の川俣地方の動静」三浦倭文 p48-56				
	郷土の研究	国見町郷土史研究会			L212/K8/1-
	第13号(1982)「祖母から聞いた戊辰戦争と西南戦争余話」吉田幸重 p24-25 第15号(1985)「幕末百姓一揆」吉田幸重 p32-36				
	二本松藩戊辰戦史	相原 秀郎／著	民報印刷	2010	L212/A8/1
	二本松藩戊辰之戦と農兵之碑	小島 徳二／著	小島徳二	2004	L212/O11/1
	本宮町史資料双書 第2集 本宮地方(二本松藩)の戊辰戦争	本宮町史編纂委員会／編	本宮町	1998	L212/M7/1-2
	霊山史談	霊山町郷土史研究会			L212/R3/1-
	創刊号(1982)「明治元年(戊辰の役)当時の掛田村」菅野条治 p43-44				
R	戊辰戦争と二本松	菅野 与／著	二本松歴史研究会	2000	L212/S12/1
	館藩梁川分領の明治維新	田島昇／著	田島昇	1984	L212/T5/1
	史料 郡山の戊辰戦争 守山藩・下行合村・芳賀家文書(1)	佐藤 和司／解説	佐藤和司	2007	L213/H1/1
R	斜めから見た守山藩と戊辰戦争	吉川貞司／著	[吉川禎司]	2011	L213/Y3/2
	公私日記帳 慶応四年・明治元年 守山中町榎村家文書	郡山市歴史資料館／編	郡山市歴史資料館	1997	L213/K9/2

	石川史談	石陽史学会		L214/S4/1-
	第4号(1989)「石川・浅川の世直し一揆〔前編〕戊辰騒動(第二次浅川騒動)・〔後編〕島おんつあ異聞」 富永健造 p66-73 第13号(2000)「白河地方の戊辰戦争と年貢半減令」 上野俊郎 p1-29 第16号(2003)「戊辰戦争における石川地方 支配者の変遷と農民たち」 有賀 究 p1-37 , 「水戸浪士を匿った松川の田村半蔵と坂路の南条島五郎」 野木良平 p73-75			
	船引地方史研究	船引地方史研究会		L214/F3/1-
R	第16号(2012)「栗出の戊辰戦争 栗出村羽山大権現信心講帳から」 佐久間良雄 p1-7 第18号(2016)「創作「河野広中と戊辰戦争」」 高橋秀紀 p14-26			
R	戊辰の年・三春藩	橋本捨五郎／著	カネサン書店	1992 L214/H5/1
	白河藩御用達 荒井治良右衛門慶応日記	荒井治良右衛門／著	白河史耕会	2002 L215/A1/1
R	幕末白河藩国替顛末	金子誠三／著	金子誠三	1967 L215/K1/1
	棚倉史談	棚倉史談会		L215/T3/1-2
R	第2号(1974)「戊辰夜話」 石沢寛 p2-3 第3号(1975)「棚倉城に残る明治維新の実話」 斎藤俊一郎 p62-63 , 「戊辰役こぼれ話」 山内一郎 p64-71 第7号(1985)「咸臨丸・吉岡良太夫伝」 山田茂 p13-20 ※吉岡良太夫は矢祭町の生れ。長崎奉行所牧志摩守邸の祐筆となり、のちに咸臨丸の総務・経理をつとめます。 第8号(1990)「明治戊辰六月二十四日の棚倉」 高坂覚治 p8-15 , 「戊辰戦争と蛭田家文書」 植村美洋 p16-23 , 「戊辰戦役 棚倉落城実録」 山内一郎／編 p46-52 第9号(1996)「明治戊辰役棚倉藩戦死者覚書」 高坂覚治 p1-10			
R	磐城三藩明治戊辰戦争余聞	斎藤笹舟／著	東海岸郷土史蹟研究会	1940 L218/S1/1
	磐城三藩の戊辰戦争	上妻 又四郎／著	雄峰舎	2015 L218/A3/1
	いわき史料集成 第1冊	いわき史料集成刊行会／編	いわき史料集成刊行会	1987 L218/I13/1
	「湯長谷藩農兵戊辰戦争見聞記」を収録(p133-139)			
	磐城平藩戊辰實戦記 藩士十六人の覚書	いわき歴史文化研究会／編	平安会	2013 L218/I29/1
	磐城戊辰史	明治百年記念事業磐城推進委員会／編	明治百年記念事業 磐城推進委員会	1968 L218/M4/1
R	旧平藩 戊辰殉難者追憶	三村 直次／編集	安藤家	1967 L218/M9/1
	えおひつぷす	相馬郷土研究会		L219/E2/1-
R	335(2016.7)「戊辰戦争と大坪(上)」 336(2016.8)「戊辰戦争と大坪(下)」			
	相馬郷土	相馬郷土研究会		L219/S15/1-
	第10号(1995)「駒ヶ嶺口戊辰戦争史一城郭戦のこと一」 阿部恕 p53-66 第15号(2000)「錦織晩香先生の履歴」 佐藤高俊 p1-7 ※錦織晩香は中村藩士で藩校の学頭をつとめました。戊辰戦争の折には対外折衝役として中村城下が被害にあわないよう交渉しました。 第19号(2004)「戊辰参戦記と角田県への出仕 堀口利安の履歴と時代背景」 渡部行 p1-6			
R	相馬郷土研究会資料叢書 第28輯 戊辰戦争従軍記	佐藤高俊／編	相馬郷土研究会	1997 L219/S10/28
	「会津追打応援被仰付操(繰)出し万日記」「萬調帳」「戊辰戦記」「軍日記」「戊辰戦争軍記」の5編を収録。ほかに『相馬市史 6 資料編 3』(L219/S9/6)にも戊辰役関係資料が収録されています。			
	南相馬市博物館研究紀要	南相馬市博物館		L219/M6/2-
R	9(2006)『『奥羽戦争日記 上』からみた戊辰戦争 一東北からの視点一』 水久保克英 p25-40			
	わが郷土なみえ	西 徹雄[ほか]／著	ヨークベニマル	2000 L219/N9/1
	「戊辰戦争余話」 山田清三／著(p91-106), 「戊辰戦争の経過」(p109-171)あり。			
R	在郷給人の記録 幕末・明治の世想が見える	四條喜三郎／著	[四條喜三郎]	1995 L219/S20/1
	文久元年・ある城下町の一年 記録でたどる奥州相馬中村の幕末	鈴木 清／著	歴史春秋出版	2015 L219/S30/1

安部井磐根翁資料展 明治の動乱期に活躍した郷土の先覚者	二本松市歴史資料館／編	二本松市歴史資料館	[1982]	L289/A4/5
安部井磐根は二本松藩士として帰順工作に努めましたが成りませんでした。維新後は藩の旧領回復に奔走します。後に福島県議長や衆議院議員となりました。				
歌人天田愚庵の生涯	堀浩良／著	同朋舎出版	1984	L289/A5/15
天田愚庵はいわき生れの歌人。戊辰戦争で行方不明となった両親と妹を探して日本各地を放浪しました。				
R 道の記	 丹羽久子／著	小此木忠七郎	1917	L289/N10/1
著者は幕末の二本松藩主丹羽長国夫人。 ※国立国会図書館デジタルコレクションで公開				
海を渡った幕末の曲芸団 高野広八の米欧漫遊記	宮永 孝／著	中央公論新社	1999	L289/T57/1
高野広八は福島市飯野町出身で、慶応2年～明治2年にかけて欧米を巡業した日本人曲芸団に後見人として同行しました。				
広八日記 幕末の曲芸団海外巡業記録	飯野町史談会／編	飯野町史談会	1982	L779.5/I1/2
こでらんにdeふくしま通 3 福島の長い一日 幕末・東北戦乱の始まり	福島市観光コンベンション協会／[編]・発行		2013	L291.1/F58/3-3
R 白川口総督より板倉甲斐守への文書		[出版者不明]	[明治初期]	L310/S3/1
大熊町郷土誌 第2号 浜通り一帯の戊辰の役		大熊町公民館	1995	L388/O6/2
落城 戊辰戦争の勝敗を分けた白河口の戦い	穂積 忠／著	栄光出版社	2012	L913.6/H29/2
白河口の戦い 戊辰の秘話	荒井 忠秋／著	白河史耕会	2013	L913.6/A14/2
白河近郊 戊辰の墓標 明治の礎 [正]・続	荒井 忠秋／著	荒井 忠秋	2006/2013	L913.6/A14/1-
奥羽戦争福島藩記事	山岸文蔵／著	山岸文蔵	1899	CS210/O1/1
閲覧はCD-ROM版となります。				
落城 戊辰戦争の勝敗を分けた白河口の戦い	穂積 忠／著	栄光出版社	2012	L913.6/H29/2
歴史 二本松藩士の維新	榊山潤／著	富士見書房	1990	L913.6/S7/3
燃えたぎる石	植松 三十里/[著]	角川書店	2011	L913.6/U7/2
主人公片寄平蔵は1813年に今のいわき市四倉に生まれました。黒船が石炭を燃料にしていることを知り、いわき市内郷白水で採炭を始め、後に常磐炭鉱の父と呼ばれます。				
歴史読本	新人物往来社			Z210.05/R4
通巻697号(1998.9)「物語廃藩置県(33)二本松藩」高野澄 p280-285 通巻779号(2004.10)「二本松藩最後の藩主夫人丹羽久子 戦火からの逃避行ルートを辿る」巻頭口絵p6,「二本松藩丹羽長国夫人久子」根本豊徳 p64-67 通巻903号(2014.7)「命運を分けた衝撃事件 東北地方 平藩」星亮一 56-59,「全国47都道府県我が県の幕末 福島県」p136				
本の旅人	角川書店		2016	Z910.5/H5
通巻254号(2016.12)「幕末雄藩列伝 第8回 二本松藩」伊東潤 p108-115				
R 大坂日記 御目付	高橋直周／手写	[出版者不明]	1866	L210.08/O3/1
R 日記 文久三年	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/1
R 日記 慶應元年	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/2
R 日記 慶應4年	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/3
R 仮日記 元治元年 東金出役中	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/4
R 仮日記 慶應元年 閏5月21日-8月7日	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/5
R 仮日記 慶應元年 従8月7日至10月1日	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/6
R 仮日記 慶應二年 従正月元日至2月29日	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/7
R 仮日記 慶應二年 従3月1日至9月26日	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/8
R 仮日記 慶應二年	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/9
R 仙台行日記 慶應四年	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/10
R 陣中日記 慶應四年	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/11
R 覚書	高橋直周／著	高橋直周	1866	L210.08/T2/12

R	日光山御警衛中探索留 元治元年	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/13
R	出役自分控 萬延二年	高橋直周／著	高橋直周	1861	L210.08/T2/14
R	雑集 元治元年	高橋直周／著	高橋直周	出版年不明	L210.08/T2/15
R	御家御軍役并諸軍役録	高橋直周／手写	[出版者不明]	1865	L211/O2/1

高橋直周は幕末の福島藩士。はじめ秀蔵のち純蔵。諱が直周。『福島市史資料叢書 第62輯 板倉藩士略譜』に経歴があります。

## 二本松少年隊

	十二歳の戊辰戦争	林 洋海／著	現代書館	2011	L210.6/H14/1
	二本松少年隊のすべて	星 亮一／編	新人物往来社	2009	L210.6/H7/31
	二本松少年隊の話 戊辰戦記	紺野庫治／著	カメヤ書店	1960	L210.6/K3
	武士道 二本松少年隊の記録	紺野庫治／著	歴史春秋出版	1994	L210.6/K3/2
R	二本松少年隊記	二本松少年隊百年祭協賛会／編・発行		1967	L210.6/N11/1
	明治維新の夜明けを見ずに可憐な花を散らせた 二本松少年隊	二本松藩丹羽家入府360年記念事業実行委員会／編・発行		2003	L210.6/N13/1
	二本松と戊辰戦争 ～二本松少年隊のふるさと～	二本松市／[編]	二本松市	2012	L210.6/N15/1
	絵でみる二本松少年隊	二本松史談会／編	国書刊行会	1981	L210.6/N2/1
	二本松少年隊	二本松少年隊顕彰会／編	二本松少年隊顕彰会	1988	L210.6/N6/1
	二本松少年隊	二本松市教育委員会文化課／編	二本松少年隊顕彰会	2013	L210.6/N6/2
	霞城の太刀風 二本松老少年隊の勇戦	佐倉達山／[著]	相原秀郎	1988	L210.6/S1/2
	1928年発行の『霞城乃太刀風』の復刻版				
R	二本松少年隊	大内金吾・菅野満／共編	大内金吾	1931	L210.6/S2/1
R	二本松少年隊秘話	佐藤利雄／著	霞ヶ関書房	1941	L210.6/S3/1
	落城二本松 二本松少年隊の稚き霊に捧ぐ	安藤信／著	文祥社	1959	L913.6/A2/1
	二本松少年隊 戊辰戦争と二本松藩	野村敏雄／著	偕成社	1980	L913.8/N1/1
	二本松少年隊の歌・誉の若武者		ポリドール		D763/N6
	松竹京都映画「二本松少年隊」主題歌				
	季刊東北学	東北芸術工科大学東北文化研究センター			Z212/K3
	第30号(2012)「二本松少年隊の歴史と東北」 星亮一 p53-59				

## 安藤信正

1819生1871没。磐城平藩主。老中筆頭として親米外交・公武合体に尽力しましたが、1862年坂下門外の変により失脚しました。(参考:『福島大百科事典』)

	磐城史談	磐城史談会			L210.05/I1
	第1巻第2号(1953.8)「皇女和の宮と安藤対馬守」 鈴木光四郎 p15-18				
	坂下門外の変 閣老安藤対馬守信正の記録	斎藤伊知郎／著	纂修堂出版	1982	L210.6/S16/1
	江戸幕府 その実力者たち 下巻	北島正元／編	人物往来社	1964	210.5/k
	「安藤信正」 田中彰 p221-246				
	安藤対馬守と幕末 増補2版	山本秋広／著	山本秋広	1971	L289/A1/4
	閣老安藤対馬守	藤沢衛彦／著	白竜会電が城美術館	1992	L289/A1/5
	安藤信正の時代 マンガ「いわきの歴史から」	いわき市／編	いわき市	1999	L289/A1/6
	安藤対馬守信睦公	いわき歴史文化研究会／編	磐城平藩主安藤家入部二五〇年記念事業実行委員会	2006	L289/A1/7
R	平藩主 安藤対馬守の生涯	鈴木 光四郎／著	磐城史談会出版部	1956	L289/A1/8
	旧幕府 3(5) 1899.7		<a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1559417">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1559417</a>		
	史傳 安藤對馬守履歴 p47～53 ※国立国会図書館デジタルコレクション図書館限定送信				
	考証風流大名列伝	稲垣史生／著	作品社	1983	281.04/15
	「安藤信正 『半七捕物帖』に縁ある」 p142-157				

## 世良修蔵

1835生1868没。奥羽鎮撫総督参謀。周防国(現在の山口県)生まれ。戊辰戦争の際、奥羽列藩から出された会津藩謝罪嘆願書をはねつける強硬な態度に出たことで、滞在中の福島で仙台藩士らに捉えられ斬殺されました。(参考:『福島大百科事典』)

R	奥羽史料 第一編		香雪積舎	1889	L210.1/O3/1
	「世良修蔵手簡」				
R	奥羽史料 第五編		香雪積舎	1889	L210.1/O3/5
	「世良修蔵手簡」「世良修蔵手簡の續」				
	奥羽戊辰戦争と仙台藩 世良修蔵事件顛末	藤原相之助／著	柏書房	1981	L210.6/F8/1
R	奥州信夫郡福島柳町の史跡宝林寺の三墓標について	高野作次郎／著	高野作次郎	1982	L210.6/T7/1
R	福島に於ける世良の遺蹟	高野孤鹿／著	真相報知社	1931	L289/S1/1
	福島に於ける天誅組浪士の最期	高野孤鹿／著	真相報知社	1931	L289/S1/2
	すぎのめ	福島市杉妻地区史跡保存会			L211/F8/1-
	第8号(1985)「世良参謀遭難余話」 渡辺伝四郎 p46-48 第21号(1998)「参謀世良修蔵の白石の首塚」 羽田稔 p12-15 第24号(2001)「世良修蔵事件」 高橋利夫 p51-52				
	会津史談	会津史談会			L216/A21
	第52号(1979)「岩村精一郎と世良修蔵」 塩谷七重郎 p117-138				
	会津会々報	会津会			L216/A21
	第86号(1980)「世良修蔵の史跡を尋ねて」 磯部秀夫 p17-24				
	会北史談	会北史談会			L216/K16/1-
	第53号(2011)「世良修蔵の再現」 富田 国衛 p110				
	政経東北	東邦出版			L310.5/S1
	第29巻第4号(2000.4)「ふくしま意外史 世良修蔵は本当に大悪人だったのか」 二上英朗 p146-151				
R	奥羽鎮撫使世良参謀	高本寛／著	大日本教育会山口県支部	1945	L289/S1/4
	世良修蔵事件の顛末	江代正一／[著]	江代正一	1996	L289/S/5
	世良修蔵 復刻版	谷林 博／著	新人物往来社	2001	L289/S1/6
R	長州藩士 世良修蔵参謀百年祭にあたりて	斎藤 友三／著	斎藤 友三	1967	L289/S1/7
R	世良修蔵暗殺始末	長谷川伸／著	[改造社]	[1936]	L913.6/H14/1
	七人目の刺客	早乙女 貢／著	文芸社	2002	L913.6/S26/8
	「世良斬殺」 p189-240				
	司馬遼太郎短篇全集 11	司馬 遼太郎／著	文藝春秋	2006	918.6/シJ054/11
	「斬殺」 p397-474 (初出 1968.8)				
	オール読物 51巻2号	文藝春秋		1996.2	Z910.5/O4
	「上役は世良修蔵」 中村彰彦 p242-257				
	歴史読本	新人物往来社			Z210.05/R4
	通巻776号(2004.7) 世良修蔵 p121				
	歴史研究 67 (1965.12)		<a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/7938787">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/7938787</a>		
	奥羽鎮撫使参謀 世良修蔵の暗殺 渋谷鉄五郎 p1~63 ※国立国会図書館デジタルコレクション図書館限定送信				
	「朝敵」から見た戊辰戦争	水谷 憲二／著	洋泉社	2012	L210.6/M11/1
	「会津戦争への道—世良修蔵の真意」 p163-192				

# 天狗党

水戸藩尊攘派の挙兵事件・天狗党の乱では幕命により県内の各藩からその鎮圧のため出兵しています。天狗党のうち田中愿蔵の率いる300余名は八溝山地に逃れるも、塙代官所・棚倉藩役人に捕縛され処刑されました。水戸藩の支藩である守山藩(現在の郡山市)にも乱に参加した藩士がいて処罰されました。(参考:『福島大百科事典』)

歴史	福島大学歴史学研究会		L205/F1/1-
R 第17集 「守山藩と幕末期の藩内抗争 水戸天狗党の乱を中心に」 大河峯夫 p10-28			
R 水戸天狗党の乱と金沢村郷方鉄砲組 松川郷土の文化史	齋藤 俊夫/著・編輯	齋藤俊夫	2001 L212/S17/4
大仏次郎先生 附:水戸天狗党	金沢春友/著	金沢卓寿	1975 L210.5/K2/4
R 田中愿蔵の終末 水戸史談会速記録 第1輯	金沢春友/述	水戸史談会	1934 L210.5/K2/5
R 筑波義孝と田中愿蔵	金沢春友/著	金沢春友	1929 L210.5/K2/2
天狗平昔日	近藤英喜/著	大盛堂印刷出版部	1994 L215/K6/1
福島史学研究	福島県史学会		L210.05/F1
第77号(2003)「天狗党の乱と二本松藩の出動」 山崎清敏 p1-22			
水戸天狗黨遺聞	金沢春友/著	富貴書房	1955 L210.5/K2/1
水戸天狗党と久慈川舟運	金沢春友/著	柏書房	1974 L210.5/K2/3
忠が不忠になるぞ悲しき 水戸藩諸生党始末	穂積 忠/著	日新報道	2011 L913.6/H29/1
中山義秀全集 第4巻		新潮社	1971 LA918.6/N1/1-4
この巻に収録の「関東狂少年」は田中愿蔵隊の話。			
天狗党異聞 田中隊の八溝路とその終焉	鈴木三郎/著	筑波書林	1988 081.7/F/200
八溝山 上	鈴木三郎/著	筑波書林	1986 081.7/F/246-1
八溝山と天狗党 p117-127			
大仏次郎時代小説全集 第23巻 夕顔小路		朝日新聞社	1977 913.6/O3/23-23
天狗党の乱を描いた大仏次郎の長編3作のうち乱の後半について書かれたもの。ほか2編は「天狗騒動記」「天狗騒動」。(参考:レファレンス協同データベース「大仏次郎の書いた『愿蔵火事』を読みたい。」 <a href="http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&amp;id=1000135021">http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&amp;id=1000135021</a> )			

幕末期 元号・西暦 換算早見表

西暦	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823
文化	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15					
文政										1	2	3	4	5	6
西暦	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830	1831	1832	1833	1834	1835	1836	1837	1838
文政	7	8	9	10	11	12	13								
天保							1	2	3	4	5	6	7	8	9
西暦	1839	1840	1841	1842	1843	1844	1845	1846	1847	1848	1849	1850	1851	1852	1853
天保	10	11	12	13	14	15									
弘化						1	2	3	4	5					
嘉永										1	2	3	4	5	6
西暦	1854	1855	1856	1857	1858	1859	1860	1861	1862	1863	1864	1865	1866	1867	1868
嘉永	7														
安政	1	2	3	4	5	6	7								
万延							1	2							
文久								1	2	3	4				
元治											1	2			
慶応												1	2	3	4
明治															1
西暦	1900	1950	2000	2018											
和暦	M33	S25	H12	H30											